

主体的に学ぶ児童の育成 ～伝え合う力の深まりを目指して～

I 研究の内容

- ・「伝え合う力」についての理論研究（とくに「読むこと」について）
- ・「読むこと」の指導内容・目標の系統表作成
- ・「伝え合う力」を深め、子ども達が主体的に学ぶことができるような指導の工夫の実践と検証
- ・児童の実態把握（アンケート等）
- ・「伝え合う力」を高めるための全校的な取り組みの継続指導

II 成果と課題

国語科における「読むこと」の内容を確認し、読む力を高めるために「身につけたい力」を系統的に表としてまとめた。また、授業研究においては目標を明確にするなかで指導の方法を工夫した実践がなされた。「国語力」「読解力」などが話題になっている昨今であるが、これらとの関連を明確にしながら、児童にとって必要となる読む力について今後も研究し、実践のなかで確かめていきたい。

III 研究の成果物

1 読む力を高めるための授業研究

(1) 3学年 「ちいちゃんのかげおくり」(物語文) 指導者 青柳仁美

□目指す言語能力〈文章の叙述をもとに場面や情景を想像しながら読む力〉

□指導内容・方法

- ・叙述に即して読むために、さし絵を除いた教材を作成し、文章から場面や情景を想像させた。補助資料として戦争に関する写真や文章を用意し、児童の目に触れるところに置き、戦争の場面や情景をとらえることに役立たせた。
- ・読む事への興味を高めるために最初に全文を読むことをせず、場面ごとに文章を提示し読み進めていった。

□成果と課題

さし絵を使わず、どの言葉でどのようなイメージがわくか意識させながら読ませたことにより、児童は文章の叙述に注目し読んでいた。しかし3年生という段階で、文章だけで場面や情景をとらえにくい児童もおり、実態に応じて、叙述に即して読みとるための工夫を考える必要がある。また、場面ごとに教材を提示して読ませたことについては、児童の興味を高める上では効果的であった。全文を通して読み、文章のつながりを考えることで読み取れる内容もあるので、教材や指導内容に合わせ、指導方法を考えていくことが大切となる。

(2) 2学年 「海の生き物」(説明文) 指導者 中澤幸恵

□目指す言語能力〈事柄の順序や場面の様子を考えながら、内容の大体をとらえる力〉

□指導の内容・方法

- ・説明文の記述を、動作化を取り入れることにより的確に理解させることを目的とした。その際、動きや位置関係などを記述に即して正確に文章から読みとることができたか、動作化を通し全体で確かめていった。

□成果と課題

児童は動作化に意欲を持って楽しみながら取り組んでいた。記述内容についても理解している児童が多く、動作も記述に即し行えていた。動作化をさせていく上で、どのような課題を設定するかが重要になる。動作をさせること自体が目的ではなく、その課題を解決していくために動作化を通し、読み深めていくようにさせていきたい。

(3) 5学年 「大造じいさんとガン」(物語文) 指導者 土屋弘明

□目指す言語能力〈叙述に即して登場人物の心情や性格・考え方などをとらえながら読む力〉

□指導内容・方法

- ・叙述に即して内容をとらえるため、今まで国語で学習してきた力を生かし、自分なりに読みを深めさせていく。そのために児童個々に課題を持たせ、課題にそった読みをさせる。また、読み進めていく上での観点や方法を「一人学びガイド」として児童に提示し、読みの支援を行う。
- ・個々の課題をもとにペア対話(二人での話し合い)を行わせ、他の人の考えにふれながら読みを深めさせる。
- ・一人読みでの課題をもとに、共通課題を設定し、学級全体へと話し合いの場を広げ意見を交換する。その際も叙述をもとに根拠を明確にしながら発言させ、全体で読みを深めさせていく。

□成果と課題

「一人学びガイド」をもとに個々の児童は課題を設定し、読み進めることができ有効だった。全体での共通課題における話し合いも活発なものとなった。これも個々の児童が叙述をもとに、自分の考えを持ち発言していたためであり、読みを深めていくことができていた。ただ、今回のような一人学びに取り組むことが初めてだったため、予想より時間がかかってしまった。また、指導者のよりきめ細やかな児童への評価・働きかけが必要であった。今後はこの学習を生かし、より効果的に読む力を高める学習が展開できるであろう。

(2) その他の作成資料

- ・「読むこと」身につけたい力系統表
- ・「読むこと」個人カルテの作成

(研究主任 伊藤 淳司)